

文化の風が吹くまちちくしの

文化薫道

◆其の四十一

「俗明院」に「続命院」は

あったのか？

今から約千二百年前の平安時代初め頃、現在の九州地方を管轄していた大宰府の次官、小野峯守（おののみねもり）によって設置された施設に「続命院」があります。九州各地から大宰府へやってきた人々の宿舎とする目的で、現在の筑紫野市俗明院の辺りにあったと考えられています。

古代の文献によると続命院は、松皮葺（ひわだぶき）の屋根を持つ建物7棟からなり、運営の財源として水田をあてがわれていたようです。

江戸時代の学者、貝原益軒（かいばらえきけん）は『筑前国続風土記』の「俗明院村」の記事において、小野峯守が「続命院」を建てて人々の病を癒し食料を与えていたが、いつの頃から途絶えてしまったこと、「続命院」の漢字が変化して「俗明院」となったとの推測を記しています。

しかし現在のところ地名以外に「続命院」

があった可能性を示すものはありません。また地名についても「続命院」の運営資金を賄うためにあてがわれた水田であったことの名残とする説もあります。

一方、「俗明院」の東に位置する「永岡」は古代の「長丘駅」の推定地とされています。大宰府にとっての「長丘駅」は九州各地からの官道がジャンクションのように集まる場所であり、多くの人と物がここを通過したものと考えられています。その交通量を考えると「長丘駅」に程近い「俗明院」は絶好の位置にあると推測されます。

近年、筑紫野市では古代の遺跡の発見が続いています。しかし「続命院」の所在地が明らかになれば筑紫野市の古代史だけでなく、古代大宰府の研究に大きく貢献することでしょう。



俗明院と大宰府

問い合わせ先／文化財課



筑紫野市ホームページ
<http://www.city.chikushino.fukuoka.jp/>



筑紫野市フェイスブック
<https://www.facebook.com/ChikushinoCity/>



筑紫野市ツイッター
<https://twitter.com/ChikushinoCity/>



広報 ちくしの

Chikushino No.1133

2019年5月15日号

発行／筑紫野市 編集／秘書広報課

〒818-8686 福岡県筑紫野市石崎1丁目1番1号 ☎092(923)1111 FAX092(923)5391

印刷／久野印刷株式会社
発行部数／41,800部